

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100113		
法人名	晋栄福祉会		
事業所名	グループホーム中山ちどり		
所在地	宝塚市中山桜台1-7-1		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	2012年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成24年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普通の生活を実現すべく出来ることは、利用者様に行っていたくようにしており、身体能力の維持および認知症の進行防止に力を入れております。また出ること、出来ないことを見定める中で、本人様の意思を尊重してケアを実施していくことから、本人様に安心して過ごして頂けるように個別ケアにも力を入れております。グループホームとしても二つのユニットを基本的には独立させているものの、ユニット間の利用者同士の交流や、小規模多機能型サービスとの合同レク、中山ちどり全般の行事にも積極的に参加いただき、楽しんでいただけるように努力しております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は屋上庭園から宝塚の町が一望に見渡せる高台にあり、地域密着型サービスと施設サービスの整った複合施設である。法人の機能を活用し、医療面では診療所の利用、特養の看護師からの助言の他、法人が「ちどり介護塾」を開催し、地域での見守り者を育てる取り組みが図られている。利用者は合同の行事参加や喫茶室、庭園の利用等幅広い活動が可能であり、職員も研修や委員会の参加で質の向上の機会がある。今後、法人のバックアップのもと、認知症高齢者の普通の生活を大切にした事業所独自の取り組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>* グループホームは、ご利用者の方とスタッフの共同生活による「家」と考えています。</p> <p>* ご利用者が「家」と認識していただけるように、ご利用者の皆様の自己決定を尊重し、可能な限り自由に活動できるように援助します。</p> <p>* 安心してつづき、快適な生活を送っていただけるよう「暮らし」の環境の整備に努めます。</p> <p>* 今までの、生活が大切に継続されるよう、ご利用者やご家族と十分に話しあって、個々に応じたサービス計画を立てケアしていきます。</p> <p>* ご利用者の方が、「したいこと」「できること」等を積極的に援助していきます。</p> <p>* 自分のペースで家に近い生活を送っていただき、一人一人のお客様を大切にしていける。</p>	法人の理念を中心に、在宅生活の延長として、一人ひとりが自分のペースで、家に近い生活を送ってもらえるよう取り組んでいる。スタッフ会議で理念に立ち返り、話し合っている。例えば、自分の飲みたい時に、自分でお茶を入れて飲む等、できるだけしたいことをしてもらえよう自主性を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流委員会を通じ、地域のボランティアの方に大正琴や和太鼓の演奏などを実施していただいています。また近隣の催しや地域でのイベント(お祭り等)にも参加させていただいております。	法人からの情報で、外食や図書館に出かけたり、地域の行事に参加することもあるが、法人と地域との協力関係が中心で、グループホーム独自の地域とのつきあいは少ない。管理者は、今後認知症についての相談、啓発等の地域に向けた取り組みを検討している。	地域に向けた事業所独自の働きかけを、少しずつ進められるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の自治会長や包括支援センターの方にご参加頂き、サービスの内容など報告しております。また地域の団体などの見学を受け入れ、サービス内容など説明させていただくこともあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや、検討内容については、スタッフ会議を通じ職員に伝え、検討し実施しております。	家族、地域包括、自治会長、老人会、婦人会、民生委員、知見者等が出席し、定期的に開催している。地域包括から介護保険の動向等、自治会長からイベント情報等が提供される。事故やヒヤリハット報告に対する質疑応答を通して、出席者の認知症理解や気づきにつながることもある。土曜日開催で家族の出席が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、行政に確認させていただいたり、来訪の際には、サービスの状況を説明しております。	市担当者とは法人の担当者が中心に、相談、話し合いの場を持ち、連携を図っている。また、運営推進会議の議事録を市に提出、事業所の実情を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準」における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待に関する勉強会(新人研修・毎月15日の定期研修)を実施し、行動の制限だけではなくスピーチロックをしないケアを実施に努めております	職員は勉強会で、拘束をしないケアについて学んでいる。ことばがけも、否定命令口調でなく、相手の意思を確かめるよう努めている。廊下から中庭に出るガラス戸は、転倒の危険があり施錠しているが、職員の見守りにより、利用者が気分転換や水やりなど楽しめる時間を持つよう心がけている。	素敵な中庭なので、利用者が定期的に過ごせる時間をつくるなど、さらに楽しめる時間を増やされてはいいかがか。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待に関する勉強会(新人研修・毎月15日の定期研修)を実施し、行動の制限だけではなくスピーチロックをしないケアを実施に努めております	職員は研修を通して、虐待の基礎知識を学んでいる。また、管理者は利用者の心地よさを大事にし、職員の介護技術の向上にも努めている。「スタッフノート」に日頃の思いを書き合ったり、管理者が声かけや、希望の休みが取れるよう配慮する等、職員のストレスの軽減にも努めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職前の事前研修や毎月の定期研修にて権利擁護にかなする研修を実施しています。	管理者は権利擁護に関する制度について周知している。職員に対しては研修を通して、人権の尊重を主に浸透させている。現在制度利用者はいないが、資料は法人に備えてあり、必要に応じて説明していく予定。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や見学時にご家族・ご利用者の状況についてお話をお聞きする中で、サービスの内容や、方針を伝えております。その中で、疑問や不安に思っていることをお聞きし、入居後のサービスに反映させる事や、介護の方針などについてもお伝えしております。	契約は十分時間をかけて行っている。重要事項説明書をもとに、分かりやすく事例をあげて説明し、入居後も本人、家族のよりよい関係が続けられるよう理解を図っている。見学も可能。料金等の改定は書面で同意を取っている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の面会などご家族とお話させていただく機会を持ち、ご要望をお聞きしたり、現状の報告などを行っております。またフロアにご意見箱を設置し、意見を収集するように努力しております。	運営推進会議に多くの家族が出席し、意見交換がなされている。面会時の話し合いもあり、出された意見から、職員の顔写真の掲示や、毎日テレビ体操を行う等運営に反映させている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やカンファレンスにおいて意見や提案を聞く機会を持っています。また係長以上のものが参加する運営会議を月に一度開催しており、各部署の現状等を報告しています。	職員からの提案で、利用者全員がアクティビティに参加できるようチェック表を作ったり、必要に応じた福祉用具の活用につなげたケースもある。管理者は、経験の少ない職員の小さな気づきを取り上げ、自信につなげるよう支援している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員には居室担当や行事担当など役割を持っていただくことでやりがいを持っていただけるようにしています。また労働時間・希望勤務や休みなど柔軟に対応し、就業しやすい状況を作るよう努力しております。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の受講や、新人研修・勉強会への参加により、職員全員の意欲向上に努めています。また日頃の就業や行事にも指導を行っています。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議において、地域の自治会長や包括支援センターの方にご参加頂き、サービスの内容など報告しております。参加している同業者と会議を通じて交流しています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に24時間シートの記入をお願いし、ご家族とご利用者の面談を通じてご要望に耳を傾けながら安心してご入居して頂けるように努めています。また入居後にも情報収集に努め、より安心して生活できるように努めます。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、見学、入居当初、ご家族が不安に思っていることについては、時間をとり、お話をさせていただき、不安の解消に努めております。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族に記入いただいた、「一日の生活の様子について」「これまでの生活の様子について」「ご本人の趣味・性格・週間などについて」を参考にまたご家族やご利用者との話し合いや生活状態を観察する中で必要なサービスなどを見定めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者の方が家事の分担を図り、洗濯のたたみ方・干し方など教えて頂くこともあり、人生の先輩として尊敬し、頼り頼られる関係作りができています		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとには、極力参加して頂けるようにご案内をするなど努めています。またご来訪された際にはご利用者ができることをお伝えしたり、問題に対して相談するなどの形をとり、共に解決していくようにしております。運営推進会議等でもご家族の不安や悩みについてもお聞かせ頂いています。外出や、食事介助等、積極的にご協力していただけるご家族もおられます。		

自己	者第三	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お身内の方を中心に自由に面会いただいております。またご家族と外出するなかで、なじみの場所にも外出しております。	家族同伴で馴染みの場に出かけている。事業所では、入居前の利用者の生活習慣を尊重して、レストラン、喫茶店や図書館に出かける支援をしている。利用者を支えながら、家族に暑中見舞いを出す手伝いもする等、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の食席を考慮し、その輪の中に職員が入り、レクリエーションをしたり、一人一人にコミュニケーションを図り、賑わいのある時間を提供できるように努めています。出来るだけ家事レクリエーションなどでは、ご利用者同士一緒にいただく機械を持てるように努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ状況の把握に努め、特別養護老人ホーム・ケアハウス・ショートステイへのご利用を提案したりしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にその方の今までの生活習慣や趣味などをお聞きし、また入居前の面談や入居後のご利用者、ご家族とお話を通じケアの中身を考え、またケアの方針を考えております。また日頃の様子を見守る中で、カンファレンスなどを通じ、ご本人へのケアを検討しております。	入居時に家族から生活歴を聞き取っている。夜ゆっくりしている時や職員と1対1の時本音が出ることが多い。さらに、本人の楽しそうな反応があったことも把握し、それらの情報をカンファレンスで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にその方の今までの生活習慣や趣味などをお聞きし、また入居前の面談や入居後のご利用者、ご家族とお話を通じこれまでの生活、環境の把握に努めております。また必要時にはこれまでご利用されてきたサービスの関係者に状況をお聞きする事もあります。さらに入居時「一日の生活の様子について」「これまでの生活の様子について」「ご利用者の趣味・性格・週間などについて」をご家族にご記入いただき、これまでの様子を把握するように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや居室担当を交えたカンファレンスとモニタリング、診療所との情報交換など多角的に情報を収集し、把握に努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当の意見や、看護師・医師からの報告、バイタル・体重・水分食事摂取量などの情報をはじめ、日頃の様子を複数の職員から聞き取ることで介護計画の見直しなど行っております。	居室担当が原案を作り、本人、家族から希望を聞き取り、職員間でカンファレンスを行って、計画作成者がまとめている。見直しは半年、及び随時行っている。利用者がホームの生活の中で少しでも多く、自分らしい時間を持ってもらえるよう計画を作成している。	

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や入浴日、排泄時間、水分量、バイタル値などを記録し、いつでも職員が確認できるようにしております。その中でご家族や医務、職員の提案などを取り入れケアに生かしております。			
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の理髪希望や買い物、散歩希望など、可能な範囲で実施できるよう、柔軟に職員の仕事内容を変更しております。また、小規模多機能型サービスなどの他部署とも連携し、共同でレクリエーションも実施しています。			
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる演奏や手品などの催しや、地域のGHIに対してご理解を示して下さる飲食店を把握し、利用させていただいております。			
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	中山ちどりでは、施設内にある晋栄福祉会診療所があり、定期的な往診による状態把握が可能です。また、今まで通っておられたなじみの医療機関を受診されている方もおられます。緊急時については宝塚第一病院と協力病院の契約をしており、対応について協力いただいております。	長年の馴染みの医院に家族協力で通院している利用者は1名である。月2回の定期的健診や治療には、職員付き添いで法人併設の診療所に通っている。夜間の体調不良時は、同法人の特別養護老人ホームの看護師とオンコール体制で連絡がとれるので、安心の医療連携となっている。		
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行い、数値的異常、又は体調不良・皮膚疾患などみられれば、同じ敷地内にある診療所に連絡し、すぐに診て頂けるように連携を図っています			
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院として宝塚第一病院と契約しております。入院されたご利用者がおられる場合は病院SWや病棟看護師等と状態の確認をさせていただき、早期にまた適切な状態での退院が出来るように努めております。(宝塚第一病院以外の医療機関でも同	入院時は管理者が定期的に病院に出向き、相談員等から情報を収集している。入院1か月経過時には、医師と相談して治療方針を再確認している。病状が安定した段階で適切な福祉用具等を準備し、早期退院に向け受け入れ態勢を整えている。		
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な際には見取りを含め終末期のお世話の方法などご家族や看護師を交え相談し、意思や対応等の統一を図っております。また転倒などのリスクを踏まえ、今後重度化する可能性がある方のご家族には、日頃より「様子」をお話させていただきようとしてお	契約時に重度化対応について事業所のできる支援について説明している。状態変化に応じて利用者や家族の意向を再確認し、支援方針の共有に努めている。管理者は職員に対し、終末期支援に関する法人全体研修への参加を促し、職員の意識と介護技術向上を図るため、さらに勉強会を開きたいと考えている。	利用者や家族が希望する終末期支援のため、職員全員のチームワークで介護できるよう勉強会を続けてほしい。	

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修を受けております。また敷地内に診療所を併設しており、夜間帯もオンコール体制による対応を行っております。			
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施し、避難誘導などの実地訓練をしております。また去年は消防署や地域と共同で防災訓練を実施したこともあり、今年に入って市内の福祉避難場所として指定を受けております。(H24.1.31)	創設1年であり、防火・通報・避難訓練は法人合同で1回実施し、利用者も参加し避難経路を確認した。特別養護老人ホームをはじめケアハウスなど複合施設となっているので、災害時の地域の避難場所として市から指定を受けている。	災害時には、昼夜を問わず安全な避難ができるよう、日常的に職員全員で話し合い、事業所独自の訓練も実施されてはどうか。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や入職時の研修を通じ、また日頃のスタッフ会議の中で、注意点を話し合い、職員の質の向上に努めております。	利用者に敬意を払うことを基本に、言葉遣いやケアの内容についてスタッフ会議で話し合っている。職員の気になる言葉かけなどは、管理者がその都度注意するようにしている。		
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、一人一人とコミュニケーションを図り、お話を傾聴する中でご本人の希望や思いを聞きだし、支援しています。外出やレクリエーションに参加したくないときがあったとしても、無理に参加する事なく、できるときにさせていただくように配慮している。			
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調などを考慮し、入浴・食事・趣味など、その人のペースを大切に、何をしたいのか、会話の中でアセスメントして、希望に添った支援をしています			
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のモーニングケア時に口腔ケア・洗顔・整髪・洋服選びをご利用者と一緒にしています			
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3回は昼食メニューが選択でき、魚・肉など、お好きな物が食べられるように支援しています。又ご利用者と職員と一緒に準備や片付けを行っています	調理は業者に委託して法人全体の食事が賄われ、利用者の状態に合わせ、例えば刻み食もその状態で運ばれてくる。週3日、昼食のメニューは選択でき、利用者は好む方を選んでいる。外食はこの1年間に2回実施し、週2回おやつは利用者とともに手作りし楽しみの時間としている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員食事量を記録し、必要な方には、水分量の記録も実施しております。体重の増減に応じ、食事量の <b>見直し</b> や、診療所の助言を取り入れたりしています。また嚥下状態に問題がある方にはトロミ剤・刻み食・ミキサー食などの <b>食事形態を工夫し、召し上がっていただいています。</b>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には <b>促しを行い</b> 、実施困難な方についてはポリドント等による消毒や <b>歯科医師の指導のもと</b> 、口腔ケアを実施しております。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、 <b>ご利用者</b> の排尿間隔を把握することで、適切な排泄が出来るよう支援しております。また訴えることができない方へも、間隔を見定め、声かけやトイレ誘導を実施しております。(排尿直後を意識したパット交換など)	排泄に関しては、半数以上の利用者がほぼ自立状態であるが、引き続き自信を持って生活していただけるよう配慮している。声かけが必要な利用者には、排泄リズムを把握し、さりげなく耳打ちして誘導している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂っていただいたり、入浴時等に腹部のマッサージをするなどして対応。また <b>長期排便のない方には医師とも相談の上</b> 、必要に応じて下剤、座薬を服用していただくことで便秘の予防に取り組んでおります		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、体調が良ければ個浴でゆっくりと入って頂ける時間を設けています。また血圧が高いなどがあった際にはシャワー浴や清拭に切り替え、快適に過ごしていただくようにしています。希望者には、バスクリンなど入浴剤を使用して <b>入浴時の楽しみにしていただいております。</b>	週2~3回の入浴を基本とし、時間は10:30~16:30としているが、利用者の体調と希望を確認してゆったりと入浴してもらっている。湯は利用者ごとに入れ替え、季節感を出すため、ゆず湯や入浴剤を入れるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切に考え、眠れない方は <b>無理に就寝を促さず</b> 、眠くなるまでリビングで会話をしたり、外出などで疲れた方には <b>すぐに居室で休息を取って頂いたり、個別に対応をしています</b>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や目的を把握して対応しております。もし使用用途が不明な場合は <b>医師・看護師に確認し</b> 、説明を受けております。また薬の変更についてはご家族に報告させていただき、ご安心頂くよう配慮しております。		

自己	者 第三	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいのある日常生活を過ごして頂けるようにする為、レクリエーションや家事・外出・園芸などの活躍できる場を幅広く設けています	
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーでの買い物・中庭・屋上庭園などの散歩以外にも希望に添って図書館や園芸店などにも出かけられるように支援しています	事業所周辺は傾斜があり外出しづらい環境であるが、買い物や図書館などには車で定期的に出かけている。中庭は広いウッドデッキに2つの花壇が設置されている。見晴らしの良い屋上には、四季にわたりいろいろな花を楽しめるように工夫された花壇があり、利用者は風を感じ日光浴ができています。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方のみお金を所持して頂き、外出の際は、自身のお金でお支払いしていただくようにしています。しかし、お金への執着や、取られ妄想、不穩になる可能性がある場合は、GHIによる一時的な立替により、購入していただく場合があります。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は携帯電話を所持して頂き、いつでもご家族と連絡が取れるように支援しています。また、お手紙をもらい、読んでいただくような対応をしている場合もございます。	
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は徹底した掃除を行い、清潔を保持しています。また玄関や中庭には季節の花が植えられ、四季の季節を感じて頂ける工夫をしています。室温管理はカーテン等での採光調整や、エアコンにより、快適に過ごしていただけるようにしています。また定期的な換気を実施し、空気の入替えを行う事で、感染症予防もしております。	事業所入口には生け花や緑の鉢物が置かれ、季節的な飾りつけもされ、居心地良い場づくりがなされている。中庭や「光庭」から光が差し込み、全体的に明るい落ち着いた雰囲気である。快適に過ごせる空間となるよう常に清潔保持を心がけ、不快な光や音には注意している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席以外にもソファがあり、くつろいでテレビを観たり、足を伸ばしてリラックスして頂ける空間を設けています。また中庭にはベンチを設置し、気候のよい日は暖かい日差しの中、ご利用者同士で会話をして頂ける場所作りもしています。廊下にはソファを設置し、気軽にご利用者同士やご家族とお話できるようにしております。	
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れたタンスなどを持ち込んで頂き、快適に暮らして頂けるように工夫をしています。また歩行力の低下が見られる方には、椅子など置き、手すり代わりに使用できるようにしております。(家庭的な雰囲気を維持する為)	居室にはトイレと洗面台が設置され、ベッドと小さな小引き出しは事業所が用意している。入居時には、家庭での使い慣れた物を持ってきてもらうよう勧め、利用者が好むものを置き、その人らしく快適な生活となるよう努めている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前にはご利用者が見えやすい位置に表札をつけ、トイレがわかりづらい方には、トイレと書いた紙を貼ったり、足元灯を点けたり工夫しています。	